

第13回人間サイズのまちづくり賞 まちなみ建築部門

自然体感展望台 六甲枝垂れ

阪神電気鉄道株式会社
三分一博志建築設計事務所
株式会社鴻池組

展望台建設の目的

- ・六甲山の新たなシンボルの創出
- ・眺望、夜景のPRによる来場動機付け
- ・観光名所化の促進(広域からの集客)
- ・周辺施設への波及効果(回遊性の創出)
- ・収益性の強化(有料施設として運営)



かつてのシンボル「回る十国展望台(2002年に営業終了)」

設計コンペを実施

展望施設であることを前提に、
コンテンツを加味した提案を募集

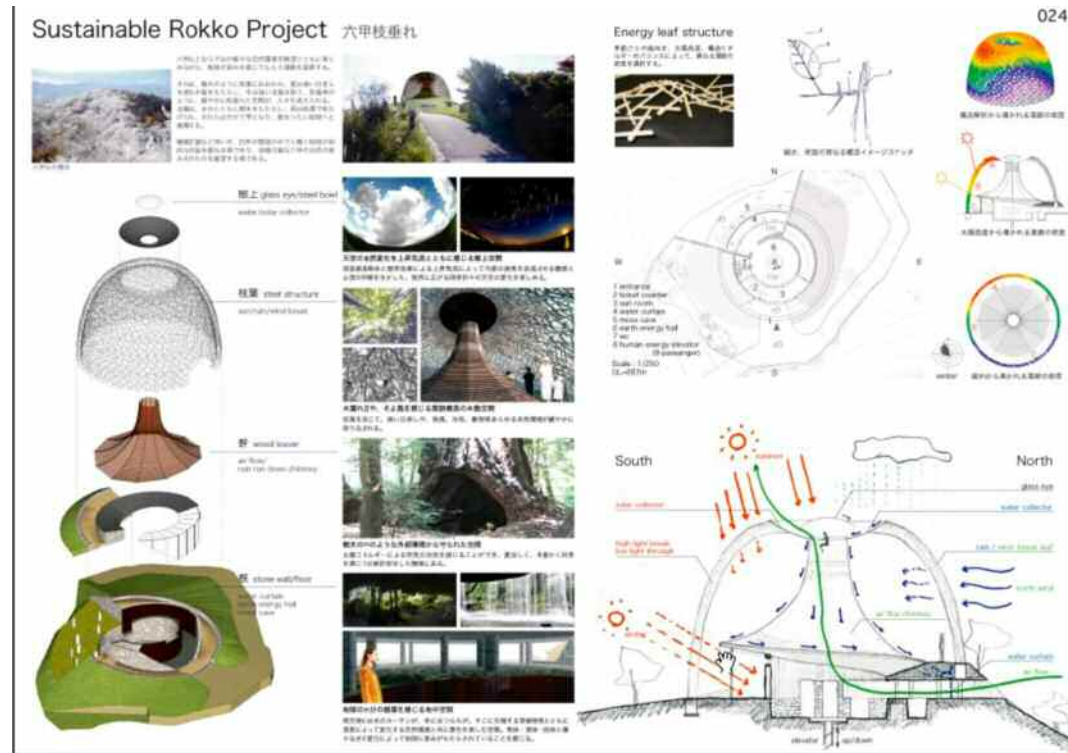
主催：(社)日本建築家協会近畿支部
阪神総合レジャー(株)

期間：2008年9～12月

対象：日本建築家協会会員の
40歳以下の建築家

有効応募数：103人

最終審査：書類選考による入選案5点
(5人)によるプレゼンテーションを行い、
最終審査の結果、三分一博志氏の
「六甲枝垂れ」が最優秀作品に決定



自然体感展望台 六甲枝垂れについて

山の上に立つ1本の大きな樹
というのが、自然体感展望台
六甲枝垂れのコンセプトである

枝垂れをイメージさせるヒノキ
のフレーム(枝)が展望台を覆う

大木の幹のような 展望台の
中央部が、風を吸い上げ上部
に放出する構造になっている

六甲山の自然を体感できる
展望台である



自然体感展望台 六甲枝垂れの内部

風を取り込み、写真の「煙突構造」により上空から放出する自然換気を行う

冬季に「氷棚」でできた天然の氷を切り出し、建物内部の「氷室」に保管
夏季には、取り込んだ風を氷室の下を通して冷却し、写真の肘掛から出して自然換気を行うことで、着席した方に涼しい風を感じてもらえることができる。
室内温度は約20℃、肘掛から噴き出す風の温度は約15℃であり、天然のクーラーを体感いただくことができる



「氷棚」にできた氷



展望台中央の「幹」部分の内部

冬季の樹氷

樹氷は、六甲山特有の自然現象
- 5℃以下、湿度ほぼ100%、
風速5 m/秒以上という条件が揃った
時のみ発生
空気中の水蒸気が、枝状の物体に
衝突することで瞬時に樹氷となる



樹氷(ヒノキのフレームに付着)